いざ初陣の場へ

平庭闘牛大会つつじ場所開催

東北唯一の「平庭闘牛大会」。6月10日、小雨降る平庭高原闘牛場で、つつじ場所が開催されました。本大会は昨年の春に生まれた2歳の牛のデビュー戦。その中には東日本大震災の翌日3月12日に生まれた柿木由松さん所有の「柿乃花3．12」も登場。震災からの復興を意識させる大会となりました。

柵の中に入場する柿乃花3．12。本大会では昨年春に生まれた2歳牛12頭が初陣を飾りました

南部角突き甚句

平庭闘牛を
甚句に詠めばヨー
東北唯一の　角突きヨー
春はつつじが　咲き乱れ
秋はもみじで　山燃ゆる
白樺美林の　平庭で
勢子の気合で　角合わせ
人牛一体　大一番
意地と闘志が　ぶつかって
かけひきしながら　隙を待つ
牛主観衆　息を呑み
勢子が勝負を　見極める
歴史は古く　遡り
塩の道から　始まって
ワガサを決めるに　角突きを
郷土の伝統　守りつつ
手塩にかけて　育て上げ
行く末　越後や南国へ
渡って　横綱登りつめ
多くの名牛　全国に
名声高き　南部牛
いわて平庭　闘牛を
どうかご支援　ヨーホホイ
願いますヨ

甚句を歌う内坪博人さん

ぶつかり合いに歓声

開会式では名調子の南部角突き甚句が大会の始まりに花を添えました。取り組みが始まると場内に響く「ゴツッ」というぶつかり合う音。両者一歩も引かない勝負には、場内からは歓声が湧き上がりました。

取り組み中は、新潟県長岡市の山古志闘牛飼育組合の松田淳さんによる分かりやすい解説もあり、観客は皆楽しんだ様子でした。二戸市から来た齋藤美和子さんは「大きい牛は迫力がありました。こういった伝統が残っているのは素晴らしいです」と笑顔で話していました。

若い牛を育て上げる

平庭闘牛の特徴は若い牛が多く出てくること。この日も取り組みを行った28頭のうち18頭は3歳以下。若い牛は遊び盛りで、なかなか闘争心を出さないので、まずは角を突き合わせるまでの駆け引きが見ものです。また平庭闘牛は、牛に最後まで決着を付けさせません。聞くところによると、若いうちから決着をつけると負けた牛に負け癖がついてしまい、闘牛の牛に向かなくなるからとか。全国各地に闘牛素牛（もとうし）として出ていく牛たちを、強い牛として育て上げようとする生産地としての誇りが感じられます。

今年度、あと2回ある平庭闘牛大会。皆さんも闘牛場へ、迫力の取り組みを観戦してみませんか。

1／激しいぶつかり合いが繰り広げられました
2／小さな牛も、自分より大きな相手に果敢にぶつかっていく、闘牛の醍醐味に勢子の下舘進さんも思わず笑顔
3／あいにくの雨模様にも関わらず約1,000人もの観客が来場、迫力の取り組みに歓声を上げました
4／取り組みを終えた横綱に子どもがあいさつ。牛と観客との距離の近さも人気の秘密です

INTERVIEW

小さい牛闘う姿かわいい

初観戦です！小さい牛が大きな相手に立ち向かう姿は迫力の中にかわいらしさも。試合の解説も楽しませてくれますね。

桃木　康行さん（盛岡市）

牛と牛ぶつかる姿は迫力！

家族４人で来ました。初めて見たけど、牛と牛が体でぶつかって闘う姿はすごい迫力です。宿題の作文にも書きたいと思います。

久慈　竜ノ介（りゅうのすけ）くん（侍浜小６年）